

ふくい社会福祉

ふれあいネットワーク

10
No.395



温故知新 ～一途に社協道～

ふるさととは資源と人材の宝庫

環境パートナー池田 理事・Pecoの会 代表

は せ が わ ひ ろ し
長谷川 浩 さん（池田町）

池田町は山間地にあり、森林率が92パーセントという山に囲まれた小さな農村です。

この町は、高齢化率が約39%と県内一進み、例外無く少子化も進んでいますが、この町には素晴らしいところも沢山あります。しかし、残念なことに、あたりまえの豊かな環境に慣れすぎ、その良さに気づかずに都会の暮らしに憧れて故郷を後にする人もいます。

過疎化に悩むこのまちを元気にするためには、住民一人ひとりがそれぞれの立場で「できることからちょっとづつ」まちづくりを考え行動していかなければ、池田町の将来も危ういのでは？と思っています。

みんなの環境に関する行動を促すために、町民でエコキャンドル作りに取り組みました。「捨てればごみ、使えば資源」と食品資源のリサイクル事業の一環で集めた食用廃油で住民が一致団結してキャンドル（廃油ロウソク）作りをしています。減らせる環境への負担は微々たるものかもしれませんが、一人ひとりの心がけで解決できる問題は環境問題だけではないと思います。

実生活では、自給自足の生活を目指しています。林業をする傍ら、仕事の合間にできる範囲でチェーンソーを使った木工アートや自宅をこつこつと造っています。中でも囲炉裏にはこだわりがあります。

子どもの頃は、囲炉裏で食事をとり、暖をとり、炎が明かりとなる生活でした。家族が囲炉裏の周囲に集り、一日の出来事などを話す一家団欒の時間が持てることで、自然と家族の絆は保たれていたように思います。炎にはそういう素晴らしい力があります。

寒くなると囲炉裏と薪ストーブで暖をとりますが、燃料は間伐で倒された木を利用します。そのほかには木彫りの材料も切り株など林地残材を再利用しています。

「池田は資源と人材の宝庫」なんです。こんな山奥ですが、地域の資源を活かし、お互い様の気持ちで助け合っていけば十分に幸せに暮らせます。田舎ですから困ったときは近所どうして助けあったり貸し借りしたり、今より不便な時代を生きてきたお年寄りの方々の知恵にも度々助けられます。様々な活動をとおして「協力」や「もったいない」など当たり前の日常を見直すことができればよいと思っています。

そして、「環境の取り組みでも少子高齢化でも先進地である池田町が変われば、日本が変わる、日本が変われば世界が変わる」と確信しています。



表紙の企画について

様々な人たちの目線から「地域のつながり、人とのつながり」に関するメッセージをいただいています。



この広報紙は共同募金の配分金を受けています。

町に愛を。胸に羽根を。

赤い羽根共同募金にご協力よろしくお願ひします

赤い羽根共同募金は、じぶんの町を良くするしくみです。

赤い羽根共同募金は、昭和22年（1947年）に、戦後の厳しい生活の中で、お互いに助け合って生きて行こうという強い連帯感から始まりました。当初は、戦後復興の一助として、戦争の打撃をうけた福祉施設を中心に資金支援をする活動として機能を果たしてきました。そして、66年以上たった今も、社



会が大きく変化する中で、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を支援する仕組みとして、また、市民の優しさや思いやりを届ける市民主体の運動として、共同募金は地域や社会を良くしていくこうとする福祉活動を支え続けています。

地域から孤立をなくそう

特に、最近、隣近所や地域でのつながりが薄くなる一方で、引きこもりや虐待、経済的困窮など、さまざまな理由により地域で孤立してしまう人たちがどのように支えていくかが社会の大きな課題となっています。

これまで、社会福祉協議会や地域の福祉団体では、主に一人暮らしの高齢者や障がいのある人などを対象に地域での孤立をなくすための見守り活動やサロン活動を充実させてきました。近年、それらの人たちに加えて不登校や引きこもりなど、さまざまな理由により新たに地域で孤立してしまう人たちの巡る課題が多く見られるようになりました。そこで、共同募金会では全国共通助成テーマとして「地域から孤立をなくそう」をテーマに掲げ、地域で家族

や友人、近隣の人々などとの交流が乏しい状態にある人への支援活動を積極的に支援していきます。



9月18日に開催された赤い羽根パートナーミーティングでは、地域から孤立をなくすをテーマに集い、話し合いをおこないました。

赤い羽根共同募金は、資金ニーズを把握してから募金を集めるしくみです。

地域のさまざまな福祉ニーズを把握してから募金を行う「計画募金」という方法をとっています。これは他の募金には見られない共同募金だけの特徴です。

福井県では今年、183,724,000円を目標額に掲げ募金運動を実施します。この目標額は、福祉団体やNPO等の資金ニーズや市町社会福祉協議会が実施する地域福祉活動に必要な資金の計画を集約したものです。

今年の募金の使い道

今年の募金目標額・・・183,724,000円

災害時に支援する準備金に被災地の災害ボランティアセンターの設置などに

5,500千円

NHK歳末たすけあいに年末年始に行う高齢者や子育ての孤立をなくす活動や障害者の支援に

10,000千円

福井を良くする活動に広域的な活動を行う、ボランティア団体やNPO、福祉団体の支援に

39,126千円

じぶんの町を良くする活動にそれぞれの市町の福祉活動の支援や福祉のまちづくりを行う社会福祉協議会の活動に

95,249千円

地域助成
70%

地域歳末たすけあい歳末たすけあいとして市町の地域で行う支え合い活動に

33,849千円

赤い羽根じぶんの町を良くするクーポン

500 円以上寄付された方へ、飲食店や小売店の割引券がついたクーポン冊子をお渡しするもので寄付金がじぶんの町に役立つだけでなく、一口の寄付で何倍もの割引のある買い物が楽しめ、お店も繁盛するという関わるすべての人が幸せになれる募金資材です。



新しい募金資材ができました。

共同募金会では、若い世代のみなさんなどに、興味・関心をもっていただき、積極的に共同募金運動へご参加いただくことで、地域の福祉課題解決へつなげていくことを目的として、新しい募金資材の開発をおこなっています。

「初音ミク」や「戦国BASARA4」といったキャラクターとのコラボレーションや、地域の商店街や小売店と一緒に企画している「じぶんの町を良くするクーポン」などさまざまな啓発・募金活動を展開しています。



illustration by (kenji)
© Crypton Future Media, INC. www.piapro.net



© CAPCOM CO., LTD. ALL RIGHT RESERVED.

「災害に強い福祉施設づくりのための経営者セミナー」 & 「福祉施設防災マネジャー養成研修」の開催

災害に対して、多くの高齢者や障がい者等が利用する社会福祉施設では、利用者および職員の命を守ることはもちろんのこと、サービスの早期再開や継続を図るため、消防計画だけではなく地震、風水害等に対処するための防災計画を定めておくことが必要です。また、平常時からこうした計画に基づく事前の対策を講じ、施設の災害への適応力を高めておくことも重要です。

福井県社会福祉協議会では、福祉施設が災害発生時においても利用者に対して適切なサービスが安定して提供できるよう、ソフト・ハードの両面から災害に強い施設運営に向けた防災対策や、施設管理における防災の中核的役割を担う人材の養成を目的として、「災害に強い福祉施設づくりのための経営者セミナー」および「福祉施設防災マネジャー養成研修」を開催しました。

本研修は、福祉施設において防災等の取組を推進する人材の養成を目的とし、県内の福祉施設職員 53 名が受講しました。

研修は 3 日間の日程で行われ、災害時におけるボランティアとの連携・協力、利用者への支援や福祉施設の役割、平常時における福祉施設の防災対策、事業継続のための方法等に関する講義や演習を通して、防災対策（体制等）の強化や発災時における利用者等に対する継続的な支援の調整・確保を行っていくための知識、手法等を学びました。



NPO 法人 レスキューストックヤード 浦野氏による講義



認定 NPO 法人 災害福祉広域支援ネットワークサンダーバード 野田氏（写真左）および安井氏（写真右）による講義・演習指導



グループ討議の様子

福祉施設防災マネジャー養成研修

【期日】平成25年8月29日(木)、9月3日(火)、4日(水)
【会場】福井県社会福祉センター

セミナーには、県内の福祉施設経営者等 54 名が参加し、災害時における利用者および職員の安全確保や、利用者に対する継続支援に向けた施設運営におけるリスクマネジメントの重要性を再確認する機会となりました。

当日は、神戸市に拠点を置く、NPO 法人 阪神高齢者・障害者支援ネットワークの理事長 黒田裕子氏から、「福祉施設における災害対策

について」をテーマとする講演をいただきました。

氏からは、「災害時の対応（行動内容等）」については、一部の管理職だけが把握しておくのではなく、全職員に周知徹底しておく、「発災直後だけでなく、中長期を見越した災害対応計画づくり」など、災害への対応や福祉施設としての役割などについて指導をいただきました。



黒田氏の講演の様子

災害に強い福祉施設づくりのための経営者セミナー

【期日】平成25年8月12日(月)
【会場】福井県社会福祉センター

受講者の声



(福) 聖徳園
あわら児童家庭支援センター
相談員 南 康法さん

しました。

今後は、自施設での災害に対応できる体制と地域との関係をより強固なものにしていきたいと思っています。

今回の福祉施設防災マネジャー養成研修には、災害時に自施設がどのように機能するべきかを学ぼうと思い参加しました。

研修では、具体的な事例やグループワークなどから災害への対策を学びましたが、その中でも地域や関係機関との協力関係が、とても大切だということ強く感じ



高浜社会保険介護老人保健施設
サンビュー高浜
介護主任 高田 尚彦さん

それと同時に地域に対して、支援拠点となれる施設にならなければいけないという使命感を感じました。

この研修で学んだことを基にして具体的な災害対策マニュアルの作成にあたりたいと思います。

当施設は原発立地地域の真ん中にあるのに、漠然とした災害認識と防災対策しかとっておらず、これでは何か有事が起きた時に対処できないのではないかと考え、この研修を受講しました。

研修を受講して、当施設が考えている認識の甘さ・対策の不十分さを痛感し、

災害への備えは万全ですか？ ～福祉施設の防災対策のポイント～

多数の高齢者や障がい者等が利用する社会福祉施設は、地震や風水害発生時に自力での身体の安全確保や避難が困難な人が多いため、いざという時に備えて施設環境を整備しておくことが重要です。

災害発生時に、適切かつ速やかな対応ができるよう、事前対策についても一度確認しておきましょう。

施設の安全対策

- 施設の安全確認 建築物の耐震診断を行い、必要に応じて補強等の整備を計画的に行う。
- 窓ガラス等の対策 網ガラス、強化ガラス等の使用に加え、割れても飛散しないようガラス飛散防止フィルム等で補強を行う。
- 備品等の対策 机、ロッカー、タンス、書棚等は金具等で固定し、転倒や移動を防止する。
- 屋外対策 遊具、物置、老木等の施設の構内にある倒壊危険物の点検を行い、危険がある場合には補強などを施す。

物資の備蓄

ライフライン（電気、水道、ガス）の停止に備えて、少なくとも3日間は入所（利用）者や職員の生活が維持できるような食料品、医薬品、衛生用品などの備蓄が必要です。

- 飲料水（1人1日3リットル）、生活用水
- 非常用食料（レトルト食品、乾燥食品、缶詰など）
- 調理器具等（ガスカセットコンロ、紙皿、割り箸、アルミホイルなど）
- 医薬品（消毒液、三角巾、ばんそうこう、胃腸薬など）
- 日用品（ウエットティッシュ、下着、紙おむつなど）
- 防災用品（担架、自家発電機、懐中電灯など）

職員参集体制の整備

- 災害の規模によって職員が自主参集するような規程および災害発生時の役割分担計画等の作成
- 防災訓練の実施と初動活動のポイントのチェック など

関係機関および入所（利用）者家族との連絡体制

- 行政、地元消防署その他関係機関、地域の応援協力団体等との連絡体制づくり
- 災害伝言ダイヤルサービス（171）の利用等による家族との連絡方法の確認 など

本セミナー、研修内容について詳しく知りたい方は
福祉サービス支援課（TEL：0776-24-2347）までお問い合わせください。

速報

台風 18 号大雨被害 ～社協活動レポート

地域とのつながりの中で展開する社協の支援活動

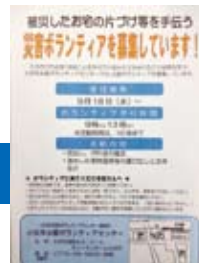
平成 25 年 9 月 16 日未明から本県嶺南地域を中心に大きな被害をもたらした台風 18 号。

中でも被害の大きかった小浜市、若狭町、美浜町では、1 日も早い復旧・復興をめざし、地元社協が地域住民とボランティア活動をつなぐ結び目の役割を果たしながら災害支援活動を展開しました。

今号では、活動初動期における動向（速報）についてレポートします。

県社協による初動の応援調整（県内社協）

県社協は、平成 18 年 8 月に締結した「災害時における社協による相互支援協定」に基づき、被災地社協を支援する活動を展開しました。



ボランティア募集チラシ

16 日（月）	●県内社協から被害の状況を確認（情報収集） ●小浜市社協からの要請に基づき、相互支援協定に基づく応援職員の派遣を調整
17 日（火）	●先遣隊として県社協 2 名を小浜市社協に派遣（情報収集とセンター立上げ準備の支援）
18 日（水）	●現地派遣の応援職員とともに小浜市水害ボランティアセンターの運営支援を開始 ●若狭町社協からの要請に基づき、県社協がセンター立上げについて協議
19 日（木）	●若狭町でのセンターの立上げに向け、若狭町社協と県社協が開設準備
20 日（金）	●現地派遣の応援職員とともに若狭町災害ボランティアセンターの運営支援を開始

市民協働型のセンター運営（小浜市）

市内の関係団体で構成する「市災害ボランティアセンター連絡会」をベースに、社協、行政、市民等が協働で運営するセンターを立ち上げました。



小浜市水害ボランティアセンター

当初から、地域の区長を通じたニーズ把握に取り組むなど、日頃からの地域のつながりを活かしたセンター運営と支援活動を展開しました。

- 【名 称】小浜市水害ボランティアセンター
- 【設置日】平成 25 年 9 月 17 日（火）
- 【構 成】社協、市内 NPO、青年会議所、行政等
- 【実 績】受付ニーズ：累計 35 件、ボランティア活動者数：延べ 447 名
- 【応援社協】延べ 33 名（7 社協、県社協）

※数字は 9 月 20 日現在

サテライト方式によるセンター運営（若狭町）

当初（17 日）は、小浜市に隣接する野木地区にニーズとボランティアを受け付ける窓口を開設。



若狭町災害ボランティアセンター

被害が町内に分散していることから、町内全域をフォローする拠点センターを開設するとともに、被害のあった地域に活動拠点となるサテライト窓口を設置して、区長との連携のもと、集落を単位にした支援活動を展開しました。

- 【名 称】若狭町災害ボランティアセンター
- 【設置日】平成 25 年 9 月 19 日（木）
- 【構 成】社協、行政、ボランティア、住民等
- 【実 績】受付ニーズ：累計 20 件、ボランティア活動者数：延べ 298 名
- 【応援社協】延べ 10 名（5 社協、県社協）

※数字は 9 月 20 日現在

ご近所力を活かした住民の相互支援活動（美浜町）

被害を受けた集落では、地元企業からのボランティアと住民が総出で住居内の泥出しや土砂の排出、家財道具の片づけ、道路の清掃作業などにあたりました。



【名 称】 美浜町社協
 【活動開始日】 平成 25 年 9 月 17 日（火）
 【実 績】 受付ニーズ：累計 14 件、ボランティア活動者数：延べ 244 名
 【応援社協】 延べ 3 名（2 社協）

※数字は 9 月 20 日現在

住民同士のしっかりとしたつながりを基本に、地元企業とも連携しながら活動をすすめました。

現地では、社協職員が被害のあった世帯の住民の心情に寄り添い、区長との連携のもとボランティアの受付や活動のコーディネートを行いました。

“顔が見える” “信頼できる” 関係づくりが基本

今回被害のあった地域では、いずれも早い段階から近隣同士が互いを気遣い、労い、信頼関係を土台にしながら相互支援の活動を行っていました。

こうした風土を活かし、さまざまな関係者との結び目になり、地域や住民とつながった活動を展開していけるかが災害支援活動に関わる社協の生命線であることを改めて確認する機会になりました。



家屋に迫る土砂と流木



決壊した河川

テレビ放送決定！ 今年、認知症について

11月11日の「介護の日」にむけて、FBCテレビ「おじゃまっテレ」[放送時間 17:20～17:25(予定)]の番組内で、認知症という病気やその介護について紹介いたします。ぜひご覧ください。

放送日	テーマ
10月28日（月）	「認知症を知る」
10月29日（火）	「早期発見・早期治療の重要性」
10月30日（水）	「認知症ケアの実際」
10月31日（木）	「認知症の人とその家族を支える仕組み」

■ 特別番組

11月10日（日） 15:00～15:30（予定）

11月19日（火） 9:55～10:25（予定）

寄贈・寄附

誠にありがとうございました。

9月9日（金）

株式会社 NTT ドコモ北陸支社 様（金沢市）

NPO法人モバイル・コミュニケーション・
ファンド助成金 50万円

寄贈先 福井県社会福祉協議会



社会福祉事業の発展のために活用させていただきます。

第60回福井県社会福祉大会・平成25年度「つながれボランティアの輪」推進運動主要事業

ふくい つながり フォーラム 2013

どなたでも、どのプログラムからでも
参加できます!!参加費無料!!

平成25年 **11月2日**【土】 **13:00～16:15**

場所: 福井県生活学習館ユー・アイふくい「多目的ホール」他
(福井県下六条14-1)

主催: 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
「つながれボランティアの輪」エコキャップアート実行委員会

プログラム

12:00	13:00	14:00	14:15	15:45	16:15
受付	【式典】 第60回福井県 社会福祉大会式典	休憩	【席上揮ごう・記念講演】 【書の実演】金澤 翔子 氏 【講師】金澤 泰子 氏	【エコキャップアート コンテスト表彰式】	閉会
エコキャップアートコンテスト作品展示・セルブ販売コーナー、特別支援学校の作品展					

席上揮ごう・記念講演

席上揮ごう

書の実演 しょうご 金澤 翔子 氏(書家)

1985年東京生まれ。5歳のとき、母、泰子氏に師事し、書道を始める。20歳のときに銀座書廊での個展開催をきっかけに、ダウン症の天才書家として、テレビや雑誌など各方面で話題を集めている。東日本大震災の被災地をはじめ、全国各地で精力的に揮ごうや個展を開催。昨年のNHK大河ドラマ「平清盛」の題字は彼女の作品。

記念講演

「ダウン症の子を育てて学んだこと」 やすこ 金澤 泰子 氏(書家)

金澤翔子氏の母。書家の柳田泰雲・泰山氏に師事。1985年6月翔子氏誕生。1990年、東京・大田区に「久が原書道教室」を開設。著書に『愛にはじまる』(ビジネス社)、『天使の正体』『天使がこの世に降り立てば』(共にかまくら春秋社)、『魂の書』(清流出版)、『海のうた山のかえ』(佼成出版)、『翔子の書』(大和書房)がある。

お問い合わせ

【事務局】 社会福祉法人福井県社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進課

〒910-8516 福井市光陽2-3-22 TEL 0776-24-2339(代) FAX 0776-24-0041 E-mail volunt@f-shakyo.or.jp



当日参加された方には、つながりの
証として反射リストバンド
つながりリングを進呈!!

